

# 第 54 回 室蘭市都市計画審議会 議事録

1. 開催日時 令和 5 年 11 月 29 日（水） 14：00～15：30

2. 開催場所 室蘭市役所本庁舎 2 階 大会議室

## 3. 出席者

委員：市村 恒士（会長）、川村 志麻、西岡 忠広、野橋 知哉、日栄 均、  
真境名 達哉、松岡 喜代孝、南川 達彦、三村 紀子、森川 卓也（副会長）、  
山中 正尚（敬称略）

臨時委員：菊地 範、木村 克俊、鈴木 広志（敬称略）

市側：（都市建設部次長／都市政策推進課長事務取扱）末尾 正  
（都市政策推進課主幹）稲場 英憲  
（都市政策推進課長補佐）村井 幹男  
（都市政策推進課都市政策推進係長）秋田 裕二  
（都市政策推進課主査）北村 祐貴  
（都市政策推進課主査）堀井 数史  
（総務部防災対策課長）武田 学  
（総務部防災対策推進課防災対策係長）佐々木 健太郎

4. 議題 (1) 室蘭市立地適正化計画の進捗状況について（資料 1）  
(2) 室蘭市立地適正化計画（素案）について（資料 2）

5. 傍聴者 報道関係者 1 名

## 6. 要 旨

資料 1、2 にて事務局から説明

### < 質疑・応答 >

#### 【市村会長】

議題の 1、2 を通して、何かご意見あればお願いいたします。この数回、防災指針の内容について、臨時委員の方も入りながら皆さんにご議論いただけてきました。それが今回、立地適正化計画の中にも組み込まれたというところを確認していきたいと思っています。今回、5 年が経ち、改定も含まれますので、そのようなことも含めて、審議していただきたいと思っています。これまでの進捗状況の確認と素案についてご意見いただくという流れになっているので、一応、1 番と 2 番は、分かれてるということになっています。全体を通して何かございますでしょうか。特に、防災指針のあたりが、書き方を含めて、前回のご指摘を受けて、修正などしておりますので、そのあたりについて、ご意見をいただきたいと思っています。

道庁からのアドバイスで、前回入っていなかったものが入ったというところが、少しわかりづらいところかと思っています。あと、構成が、防災指針の目標の、いわゆる KPI のページが、

地域別の取り組みのところより前に入れてストーリーが分かりやすくなるような形にしたというのが大きなところかと思います。防災以外につきましては、基本的には、公共交通計画の方で新しいKPIや考え方を入れたということと、全体として、5年前の立地適正化計画の大枠については、計画自体はあまり変えずに、防災の部分の改定を行うというのが素案の考え方になります。

#### 【森川委員】

103 ページ上段の矢印二つ目のところに、「市内の指定避難所の確保のほか、一次避難場所等の活用検討」と出てきます。この「一次」は一つの次と書いています。避難所もしくは避難場所という言葉が、これでいいのかなと思いますし、場合によっては違う「一次避難所等」でいいのかなと思います。同じく 110 ページの一番下の枠を見ていただきたいと思います。ここでは「一時避難所等」となっていますね。こっちの方はひとときの「一時」です。今現在、室蘭市ではひとときの「一時」という言葉は使っていないのではないかなと。103 ページにある一つの次の「一次」の方が正解かなと思っています。その場合、「一次避難場所等」という言葉がいいのか、「一時避難所等」がいいのか、どちらかに直した方がいいのかなと思いました。「一時避難所等」という言葉がこの中に 10 か所ぐらい出てきます。市民に説明するときは、市の防災ハザードマップは一つの次の「一次」になってますので、この「一時」の方は出さない方がいいのかなと。誤解も招くのではないかと思います。

#### 【事務局】

ご指摘の通りで、一つの次の「一次避難所」が正しいです。全体の整合性も含めて再度チェックして修正させていただきたいと思います。ありがとうございました。

#### 【市村会長】

かなり最終案に近い形ではありますので、細かいところでもお気づきの点あればお願いします。

#### 【日栄委員】

素案 36 ページのアンケート調査に室蘭市の各地区に求める将来像がありますが、やはり地区別でいろいろな温度差もあるようです。先ほど立地適正化計画の三つのストーリーとして定住やにぎわいづくりなどの説明がありましたが、それに関連するアンケート項目を見ると、子育てがしやすいまちや、生活しやすい便利なまちなどは、やはり蘭東の方が求められていると思います。それを踏まえて、23 ページに戻りまして、(3) 教育・文化機能として、生涯学習センターや中島公園、入江運動公園などが書かれています。都市計画マスタープランではだんパラ総合公園が出ていて、今年、キャンプ場を民間とやってみたり、市長の公約にもスノーパークが含まれていますが、それがすっかり今回抜けています。子育てについては、屋内屋外を通して、今、既存ストックを使える、少しブラッシュアップしただけでできるのですが、それがなぜ載せられてないのかというのが、まずおかしいのだと思います。どこの市町村でも、これからのまちづくりは、大体同じような感じですよ。子育て中や若年層など、うちのまちが持ってる唯一のブラッシュアップできるものは、今回と前回で違うと思います。

また 36 ページに戻りますが、今度、蘭西地区に行きますと、医療・福祉が充実したまちや、観光が盛んなまち、商店街が立地するまちなどが求められています。私も蘭西地区で商売をしています、どうしても商業というものは厳しいのかなと思っております。であるならば、私が言うのもおかしいのですが、逆にその商業よりもコミュニティの集う場所。医療、福祉や観光など、人と人がふれあったり、交流人口、関係人口が交わるようなコミュニティを形成する場所。高齢者が多いので、そういうものにシフトチェンジしていった方がいいのかなと思っております。せっかくアンケートもとっていますし。先ほど、栗林商会アリーナの入り込み状況を見ましたが、あれは、市外の方もカウントされていますよね。おそらく。であるならば、この西胆振の中で、伊達、登別、室蘭の中で、魅力的な要素なので、いろいろな売りができるのかなと。きらんが中島にあります、蘭西地区の子育て世代の方で、小さいお子さんを持っていると、あそこまでやはりバスで小さい子 2 人を連れて行くのは大変だったり、運転していくのも冬道だと不安だと聞きました。きらんの支所的なものも逆に言えばコミュニティという感じで、こちらの方にそういうのも、空き店舗も相当あるのであればその中に入れて、そういう機能なども含めればもっとコミュニティとしてまちに集えるような要素が出てきて、だから商業、商業と言っても、どこでも金太郎飴を切ったような同じな感じになりますから、室蘭が持つ既存ストックをもっと使った方がいいのではないかなと思っています。このアンケートを見ると本当に中島と蘭西とはまったく、市民が持っているイメージや将来像が違うので、それをもう少し、言い方悪いけど、現場に出てもう少し声を聞いてやった方が、せっかく、投資などいろいろなことをする割には、効果が薄いのであれば、やはり特化したものにしていった方が逆にいいのかなと思っています。

### 【事務局】

まず一つ目の、子育てに対してのどんパラ総合公園の表記のことですが、この計画の前半部分は、5 年前に作った時から、一切いじってない状況で、もともとどんパラ総合公園の記載はありませんでした。それは、居住誘導区域や都市機能誘導区域の中をどうしようかというお話の中で、その外にあるものは、今回、この立地適正化計画には含めていなくて、その分、1 年後に作った都市計画マスタープランの中では、しっかりどんパラ総合公園を位置付けて、あそこが、蘭北地域にとってとっても大事な資源なので、そこを使ってまちづくりやしましょうというような書き方をさせていただいています。

二つ目は、今後の蘭西地域での施策というお話だと思います。今回、計画の前半部分のところは、5 年前の室蘭の状況を見て、アンケートなども取りつつ、課題などを見つけて、それに対して区域を設定して施策を考えたという状況で、そのままになっていますが、今後、引き続き、施策等をやっていく中で社会情勢も変わったりなどがあると思いますので、その辺を見極めながら、次の大幅な改定はいつあるかわからないですけども、その時には、例えば商業だけでなく、もっとコミュニティのという分析になりましたら、そういう方向にしていくというのものもあるのかなと思います。

### 【日栄委員】

でも、これ、令和 6 年に、公になるのであれば、これを見た人は、やはり同じような素朴な意見で、参考資料やマスタープランに入ってますと記載したり、なにか補足しないと、おいおい 5 年間でこれが抜けてるじゃないかと、同じように思う人は多々いるのかなと思います。

### 【市村会長】

基本的には、5年前に作ったものをある程度気にしながら、次回の大幅改定に向けてという話かなと思います。どちらにしても、今、突然、ここを変えるのは難しいと思いますので、そういう意味では、次回の大幅改定への反映も含めて、ご意見などをいただければと思います。

### 【山中委員】

進捗状況の説明について、まとめにあるように、施策に掲げた事業は着実に実施しているということで理解をしました。ただ、私、いろいろな委員会も出ている中で不安な要素もあったので少しお聞きしたいと思います。

進捗状況の一つ目の公共施設の統廃合や再編についての進捗はいいと思います。今、行政が持っているいろいろな施設は大体18万人都市のときに作り上げたものがほとんどでありまして、現在は8万人を切る状況の中で、それを維持していくというのはとても大変なことなのかなということで、市の方でも統廃合計画をどんどん進めています。でも、ここに書かれているのはその施設の本当にごく一部のものです、まだまだやらなければならないことがたくさんあります。先日もある方と話していて、文化センターの残存について協力してよということをおっしゃられたのですが、こう言いました。今、輪西に市民会館ができたのに、なんで文化センターが必要なんですかと。何を言いたいかというのですね、今あるものを壊すという計画でいながら統廃合していくという計画がある中で、それを残すということは相当な費用がかかるのですね。今、国も、地方自治体も非常に財政困難なときに、それを、18万人都市のままそれを残していくというのは、非常にリスクが大きいし、大きな決断をしていかなきゃならないと思ってます。言葉が悪いですが、それらを残すと考えた時にですね、その公共施設を大いに使う方というのは、生活的に割と余裕がある方が多いのかなと思います。私どもの施設を利用していただいている方は生活困窮者の方が多いのですが、そういうことに費用を取られてしまうと、このコロナ禍も含めて、日々の生活に本当に困っている人がたくさんいますので、そういうことをきちんと整理していかないと、なかなか、地域の安心安全と言われながらも、そういう弱者対策というものに費用が回らなくなっているのが現状でございます。先日も全道の社協の大会の中で、自治体はいろいろなこと求めてくるし、非常に広範囲になってきており、求めるのはいいけど、収入が入ってこないのが運営ができない、このままでは社協はパンクしますよねという話も出てきました。ですから、社協や福祉の方にお金を回せということじゃなくて、その辺の整理をきちんとしていかないと、要するに、ここに現れてる数字じゃなくて隠れてる部分、これもやはりきちっとしたまちづくりの中に整理していかなければならないのかなと思っていますので、それについて今、進めていると思いますけど、どのような状況になっているのかをお聞きしたいと思います。

### 【事務局】

この立地適正化計画の観点では、文化センターは、交流のための拠点施設ですという位置付けになっていまして、先ほどお伝えしたように、今後、社会情勢が変わってくる中で、次の計画改定の時に、居住誘導、都市機能誘導の観点で、誘導施設の状況が変わるということも可能性としてはあるのかなと思います。今いただいた意見は、この後の課題として残させて

いただきたいと思います。また、この計画とは別に、公共施設の配置などは、市の別の部署でも考えてますので、そちらでの対応ということもあるかと思っています。

### 【山中委員】

文化センターは方向性があることが見えてるからいいのです。このままいけば何年か後に廃止ということで。ただ、全体的に、公共施設の統廃合の計画というのは別で論議されてると思いますが、立地適正化計画に書かれていることはいいのですが、それ以外に隠れた部分もきちんと明確にしておかないと、居住誘導も含め、いろいろな形で影響してくると思うので、やはり一緒に整理していくことを考えていかないとダメなのかなと思います。提案としておきます。

次に、居住誘導区域内の人口密度の話です。資料1の20ページです。ここに目標値が書かれていますが、1㎡あたり35人というのは、人口の半分ぐらいしか居住区域の中に人が入っていないという計算になるのでしょうか。

### 【事務局】

居住誘導区域と区域外の人口割合は、正確な数字は今持っていないのですが、7対3や8対2ぐらいの割合で、居住誘導区域内の人口が多いという状況です。

### 【山中委員】

これから下水道、水道も含めながらいろいろなインフラ整備やってくときに、結局、その外に入る人たちは過度な負担をこれから強いられるということなので、だいぶ整理はされてると思いますが、そういうこともきっちり明確にしながらやっていかなければならないと思います。割と優しい対応をされるケースが多いのかなと思いますので。室蘭市の居住の中で約4割ぐらいが一人暮らしの世帯だと思いますが、そういう方が、区域外に住まれる人も多いと思うので、そうなると、やはり安心、安全という関係を考えますと、簡単にまちなかに行ってくださいと言っても、この話は何年も続いています、あまり動いてないような気がしますので、その辺の整理をお願いを申し上げたいと思っています。

資料1の4ページには公共交通のいろいろな施策が書かれています。国交省では、モビリティ・マネジメントの方針が掲げられて、指針も書かれています。ただ、あれを見ますと、極端な要素が大きくて、室蘭市では中途半端な位置付けだと思います。都市部は交通機関は黒字経営の会社が多いですが、郡部になると自治体バスが動いています。でも、室蘭市の場合は民間バスなので、結局この委員会の中で、たくさん今まで協議していますが、どんどん路線数が減っているし、基本的にはやはり経営がうまくいっていないので、それに対して運転手が確保できないという状況に陥っていると思います。使う側の視点や市民の声を反映させるのはいいのですが、やはり経営的な水準で物事を考えていかないといけないのかなと思います。モビリティですから、マイカーから公共交通機関に利用転換するなど、ある程度話をされていますが、なかなかそういう環境にあるのかなと考えた時に、考え方の方針はいいのですが、具体的に本当にできるのかなという気がします。委員会も含めて、どういふうに持っていこうとしているのか。また、国の方針では自治体の持ち出しをしっかりと書いて書かれていますし、その辺、結構厳しいのかなと思ってますが、言葉で書くのはいいのですが、それをどう進めていこうとしているのか、どういう形になりそうなのか。わかれば教えてください。

### 【事務局】

公共交通の計画のことで、バスの経営が厳しいのではないかというお話だと思います。この間、路線の減少もありました。公共交通の計画を作っていく上で、バス事業者さん、タクシー事業者さんといろいろ協議させていただいて、確かに経営の面もありますが、最も厳しいのは、運転手の確保の話です。これは、バスもタクシーも共通で、であるが故に、今回、経営面でのバス路線の削減という意味ではなくて、運転手さんのやりくりの面でのバス路線の減少という話も聞いております。今回改定する公共交通計画については、当然、モビリティ・マネジメントというお話がありましたけれども、公共交通をもっと使っていこうよという動きも当然並行してやりますが、まずはその公共交通の維持が大事だということなところで、そこの取り組みを強化していこうという方向で、今、計画に書き込んでいくことを考えております。

### 【山中委員】

確かに室蘭市でもいろいろな調査をやっているのは見えています。なんでこんな話をするかということ、買い物難民、病院難民がたくさんいるのです。今、私どもの方でそういう輸送サービスも含めて手がけようとしています、法的な制限があり、それでもなんとか動かそうとしています。ある程度生活レベルの人はいいのですが、それ以下の人たちのことを考えると、非常に厳しい状況なのかなと思います。事業自体の大変さは理解はできますが、現実的にそういう声も上がってきた時に何がいいのかなと思います。

余談ですが、中島に飲みに行くとタクシーがないので歩きます。それはいいのですが、生活困窮者はそうはならないので、その辺のことも考える必要があります。できることであれば、そういう乗り合いの関係の整備も含めた、または、そういうボランティア関係の中で、乗り合いができる、そういう制度についてもご協力いただければと思います。規制を緩和するのは難しいですが、そういう体制を組んでる自治体もありますので、ぜひご支援をいただければ協力はしていけるかなと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

### 【真境名委員】

資料1について、立地適正化計画が10年で修正するのかわからないですが、折り返し点でこの結果を見て議論するという会でもあるのでしょうか。本当は、山中さんの話もそうですが、もっと時間を取ってやった方がいいのかなと思います。ただし、事務局的には資料2の方の話を見てくれということでもいいのかなとも思います。資料1に関して少しだけ加えると、21ページの0.27、0.24、0.54というのは、何を言ってるのかわからないです。22ページの路線バス50.2も何を指してるのか、何分の何なのかわからないので、議論ができないというところがあります。資料2の132ページのJRの年間利用率、年に何人と書いてるのはいいのですが、11.2はもっとわからないです。どこかを見たら書いているかもしれませんが。その辺は修正された方がいいのかなということも思いました。

資料2の83ページで、これが目次のようになっていて、情報1というのは、いわゆる各種ハザード情報っていいのでしょうか。情報1、情報2のところでもしそうならば、各種のハザード情報って文言に変えて、あと、ここにページ数を書いた方が見やすいのかなと。

84 ページの、上の方の凡例、2 階以上の建物への垂直避難の色がわかりづらいです。また、85 ページの避難場所と指定避難所というのは丸ですが、色弱者のために丸と三角など、本当はそういうのを使った方がいいのかなと思いました。

事務局的には悩ましいのかなと思いますが、94 ページなどで文言で祝津町や栄町などを点線で丸をつけて図に書いて、そこがそうだよと言っていますが、目立って、ここだけ大変なことが起きてるのかなというような気になるので、表現を工夫する方がいいのかなと思いました。

106 ページは、これは図じゃなくて表になります。まだミスがありそうだなと思います。

### 【市村会長】

資料 1 がチェックに該当していて、そこでご意見をいただいて、本当は、アクションで改定するというのが基本的な考え方だと思います。アクションとして、この計画にすぐに反映することは、今、スケジュール的にできない中で、一応、資料 1 について示して、ご意見をいただいて、次の改定に向けて、それを含める、あるいは、他の施策の中で対応していただくという形を、全体としては想定している形になります。本来であれば、ここでもう少し揉んで、この改定版に反映させるということは理想なのだと思います。時間的なことも含めて、今回はこのような形を取らせていただいているかと思います。そういう意味では、ご意見をいろいろと今、賜っていますが、資料 2 の立地適正化計画だけでなく、他の部分も含めて、ご意見をいただくことで、施策にも反映できると思います。

他の、細かい指摘は、分かるようにしていただければと思います。

### 【山中委員】

先ほどの質問では、立地適正化計画の考え方については、理解をしており、内容に対してどうこうという話ではありません。新たな考えの中でそういうことを整理しておく必要がないのかと質問をさせていただいています。冒頭に言ったように、順調に進んでますねという話をさせていただきました。

今、質問された計算式ですが、実は昨日の会議でも同じことがありました。要するに、数字を出すのはいいけど計算式を出してほしいと。だから、根本の数字の中身が理解できないということがありました。行政一般的にそういうところがあるのかなという話を聞かせていただきました。

### 【野嶋委員】

107 ページについて質問です。取組方針 2 に、防災力という言葉があります。で、この言葉は、一般的に使われてる言葉なのか、それとも、造語なのか。なんでも「力」がついてると、なんとなく、こういうことなんじゃないのかなというのはわかるのですが、いずれにしても、この計画で使う防災力という言葉の定義のようなものがあれば教えてください。何を持って防災力というのか。

### 【事務局】

この中で使ってる意味としましては、市民一人一人や、町内会、その地域の組織の中での、例えば、防災意識の向上や避難訓練などで、地域の中での防災に対しての、対応力のようなところを指しています。国の方でも、防災における共助と言われる中で、地域でも協力して

いきましょうという中でも、やはり、防災力という言葉を使っています。それぞれ地域の中での、教育体制や一人一人の防災の備え、取り組みというのも含めて、防災力という言葉を使っているのかなという認識です。ある程度一般的な言葉で、防災の分野では結構使っている言葉にはなりません。

#### 【野嶋委員】

防災に対して意識をしっかり持つということであったり、行動力をつける、行動をできるようにするということが、防災力があるということですね。これについて文句を言っているわけではありません。取組方針2の最後に、地域防災力という言葉も出てきて、表題では、一人一人の防災力とあります。リンクしてるというか、一人一人の防災力が高まれば、地域の防災力も高まるということでしょうか。

#### 【事務局】

それもありますし、今、自主防災組織ということで、地域の中で、皆さんで協力して、災害時に個々で足りない部分を皆さんで補っていきましょうというところがありますので、そういう自助と、いわゆる自分でやる時の他にも、共助と言われる、地域で助け合いましょうという部分も含めて、そういう地域防災力というのが入ってきてるのかなと思います。

#### 【森川委員】

我々も、町内会や自主防災会での、共助や自助の中において、地域力という言葉を使っています。この言葉を使った時に、地域力ってなんなのだろうかと思いました。町内会や自主防災会などにおいて、地域の人たち一人一人が力を出していくのが地域力だなと思います。市の方から、防災力という言葉は数年前から出てます。我々が取り組むときに大事なのは防災力をつけることです。防災、減災に進めていきますというときに力になるものは防災力だと思います。防災力というのは造語で言葉としてこれはこうだということはないと思います。地域の力を、意識を高めていくための言葉でないのかなと思っています。

#### 【野嶋委員】

事前に資料を送っていただいて、読んだときに、やはり引っかかるというか、あまり目にしたことがなかったので。僕のような市民が、専門家じゃない人が見た時にわかるような、防災力というのはこう、一人一人の防災力というのはこうだよ、地域防災力というのはこうだよというようなことが、わかればいいのかと思います。さっき、森川さんもおっしゃったように。例えば115ページに自助という言葉が出てきます。自助と互助とあると思いますが、例えば、防災力の中に逃げる力まで入れてしまうと、うちの近所の周りを見ると、自分で逃げられないぞ、という人たちがいます。この自助という言葉を使うのも慎重にやらなければダメだと思います。自助よりも互助かなと。共助になると、保険なども入ってきてしまうと思います。だから、そういう意味合いを持たせるためにも、107ページの防災力という意味をしっかり定義しておいた方がいいのかなと思いました。

#### 【森川委員】

市の公助や放送などを使ったり、いろいろな助けがあると思います。最終的には我々町内会や自主防災会などの力が必要だと思います。東京のある先生が「近助」という言葉を使っ



ています。近助というのは、近くの人が助けると言う造語です。例えば町内会でいえば班単位で助け合いを考えていきたいと思います。お年寄りの方たちには、あなたを車で助けますよと事前に伝えています。ちゃんと身支度して、リュックをしょったり、もしくは、避難の何かを持ったりして、玄関まで出てきます。ただ、自助と言った時、年寄りで80代、90代くらいで自分の自助って何するのと聞かれたら、這ってでもいいから玄関まで来てください。そうしたら、車に乗せて、もしくは、おんぶってでも行くこともできますよと伝えています。そこまで自分でできる努力が必要かなと考えています。そういうシステムを持たないと、どんどん、防災というのは成り立たなくなってくると思います。やはり近助、自助力というもの、役所の言葉だけではなくて、我々地域としてどこまでできるかということをやっていかなければいけないのかなと思います。それがまさに防災力で、一人一人が力を出していくということだと思います。

### 【日栄委員】

これは市のホームページから入って見るものだと思いますが、普通の市民の人たちが目を通すような形で公開されるのですか。一般の人が、例えば、ジャンル別、科目別に分かれるかもしれないけど、防災や総務のところから入っていくなど、そういうふうな形に持つてくことになるのでしょうか。まあ、お年寄りの方はホームページで1回で行けるかわからないですが、行けたとして、用語や解釈が難しかったら調べられるなど、それとも概要版が見られるようになっているのか。必要な人のためにより分かりやすい情報を伝えるというのが本来の最終目的だと思うので、今言ったことも考えていただきたいと思います。

### 【事務局】

この後、市民の方々の目に触れるのは、パブリックコメントが正式なもので、ホームページと、例えば市民会館やいろいろなところに冊子を置いて、見れる機会を作ります。そのほかに都市計画審議会の議事録もホームページにのりますので、目にする機会があります。計画の最終版は、ホームページのまちづくりの分野のところまで行かないと見ることはできないので、目につきやすいようにしていきたいと思います。

### 【森川委員】

一番最初に説明した中では、住民説明会の話はありませんでした。まだ素案の段階です。例えばゴミの問題であったり、町内会の活性化の話など、地域ごとに説明会を開いて、住民に知らしめてくださいとお願いをしています。立地適正化計画を作った時も、例えば、この地域は文化センターという形で、説明会を開いています。そういう形で、何かやってくれるのではないかなど。作ったら市民に知ってもらう方法を、町内会を通すなどして。せっかく立派なものができるけど、それが浸透しないと、絵に描いた餅で終わってしまうと思います。

### 【日栄委員】

防災の話なので、やはり全市民にわかりやすくしてほしいです。何か調べてみよう、どうしたらいいんだというときは、今スマホでSNSなどで見れますし。SNSが使えなかったら、娘や孫に聞いてどうすればいいのかと電話して聞いたりします。

## 【市村会長】

公開についてはできるだけ市民の目に触れるようお願いいたします。

## 【山中委員】

これを全て市民に対して説明するのは困難だと思いますので、市民に何をしていただきたいのかという広報活動について、これから、おそらく用意されていくのかと思いますので、部分部分の中でそういうものを整理されていくのかなと思っています。大体読みたくないですね、この手のやつは。紙一枚二枚ぐらいで、図柄の入ったもので、その地域の特性がわかるような形がいいと思います。また、先ほどの用語の関係は、注釈を下の方に入れればいいと思います。少し時間がかかるかもしれませんが。言葉が悪いですが、皆さんわかっているだろうという気持ちで書いてる部分が、結構私どもにもあります。そこはお互い考えながら書いていけばいいのかなと思います。

## 【日栄委員】

地区ごとのアンケートは素晴らしいものだと思います。自分のまちのことを話し合うとき、このような情報があれば、自分の地区の状態がわかり、自分の地区のことを真剣に考えることができると思います。防災以外にも考えさせるテーマにも分かれてるので、これはやはりある程度完成して、みんなに伝わるような形にもっていかないと、もったいないと思います。全てはとても大変ですが。

## 【木村臨時委員】

私は防災指針に関する臨時委員として呼ばれていまして、少し申し上げたかったことがあります。資料の3ページをご覧くださいと、立地適正化計画というのは、マスタープランから直結していまして、いわゆる上位計画になります。ですからこの立地適正化計画というのはその下にあるそれぞれの計画の上位計画にあって、コントロールする立場にあるのかなと思っておりました。ですから、今回は、その中の防災にあたる、室蘭市地域防災計画に則って防災指針を作っただけであります。この、立地適正化計画というのは、それぞれに対する防災にコミットメントする役割があるかなと思ってます。例えば、私、港の仕事をしてますが、港湾計画の中にも防災があるし、それから地域公共交通計画の中にも防災がある。だから、本来は、幅広く防災について、指針として書きたかったのですが、今回は、都市機能の誘導と居住機能の誘導という二つの柱について、この防災の、位置付けというか、それを、立地適正化計画に加えさせていただいた。そういう立場であります。この意義については、今回、いろいろなご意見が出るとは思いますが、これをきっかけにして、この立地適正化計画というものを、さらに実現性のあるものにしていくというのが、都市計画審議会の役割かなというふうに理解しております。

もう一つだけ、できたら変えてほしいと思うところがあります。125ページをご覧ください。事前に送付いただいた時から、この6章に違和感がありました。一枚ものがぽっと入っていて、しかも、入ってる場所が悪くて、防災指針のあとで、この次に届出制度になる。だから、読んでいて、これがどこから来てるのかなというのがわからないです。思うには、実はこれは、130ページの8章に、まちづくりの方針の実現シナリオというのが書かれていて、ここにストーリー1、ストーリー2、ストーリー3というのを、これまでの計画に向けて、実現のためのもう一つ、ステップの上だよというように見えます。そうすると、例えば8章

を、計画の評価というよりは、計画実現のためのシナリオのようにして、こういうシナリオを用意して、それを地区ごとに落とすとこんな感じになりますという、6章を後ろに持った方がわかりやすいと思いました。8章を読んでいると、文章だけなのですけれども、8章というのは、これは実はすごく大事な章で、実現シナリオのための、いろいろな、これまでの結果から、次どうしたらいいかということも書いてますし、これを実現するためには、このPDCAを回すってということも書いてますから、やはりこの6章の座りの悪さってというのは、後ろに持った方が良くなるのかなと思います。事前に送られた時の一枚ものがぼんと入っているだけで、これは何なのかなと思ひまして。この冊子というのは章立てがちゃんとなっていて、それぞれの章は全て説明がされていますが、6章だけは一枚ものがぼんと出てきてるだけですから、少し違和感あります。ご検討いただければと思います。

#### 【市村会長】

この125ページは当初計画から入っていましたよね。防災指針が入ったことで遠くなくなってしまったということもありそうです。

#### 【事務局】

当初計画から入っていました。このページを入れている意図としましては、立地適正化計画はなかなかわかりづらいところもあるというご意見もいただきながら作っていきまして、あくまでイメージ図で、室蘭全体を3地域別にこのようなイメージにしていきますよというページが1ページあると市民もわかりやすいのではないかとということで、入れたという経緯があります。

#### 【木村臨時委員】

なおさら座りが悪いと思います。このページはよくできてると思います。これより前のページに、蘭北、蘭東、蘭西という表現は、防災指針以外では、おそらく一度も出てこなかったと思います。だから、今までは東室蘭と室蘭の中心とをそれぞれを結ぶというアイデアでしたが、防災指針を書いてみて、それぞれの地区ごとに特色があるというのは、新たにわかったわけで、どこに入れるかだけだと思います。検討された方がいいと思います。

#### 【市村会長】

6章にまとめとして入れてもいいかもしれませんし、8章の後ろに入れた方がすっきりするかもしれません。そこのところをご検討ください。

#### 【真境名委員】

木村先生の指摘を受けて、改めて133ページについて。PDCAというのは、よくみんな書きますけど、やはり実行してほしいです。この計画が5年前にできたのなら、その見直しをちゃんとやってほしいです。公務員の皆さんはやっていると言いますが、いや、やっているのだけど、冊子として改定版ができる時には、もう成功していますということしか出てこないの、市民の方はやはりもう少し正直に、失敗してるところなどは出しますので、同じテーブルで話すということ、それが本当は決まっていなくてダメでないかと思います。大学のキャンパス計画も全く同じで、PDCAなど、文科省向けに聞こえのいいようには書きますが、やらないです。心してそこも計画の中に入れておかないとダメじゃないかなと思います。

さっきの資料1の21ページについて、本当は、この辺は研究的なものかもしれないですが、議論をして、なんで0.54の軸に行っていないのかというところを分析しないといけませんし、そもそもこれが、さっきの指標と同じで、どういう意味なのかということを理解しながら、せっかくの結果が出てるので、そういう機会をぜひ設けていただきたいです。もう時期的に無理だとは思いますが、本当はPDCAのところ、いつやりますということちゃんと明確に書いた方がいいなということをおもいました。

#### **【市村会長】**

前回の当初計画時にPDCAをどういう形でやるかということ自体をちゃんと仕組みとして書いていなかったの、次回5年後の改定時にはちゃんと仕組みとして入れてほしいなと思います。

#### **【川村委員】**

今、いろいろと議論を聞かせていただいて、これから、反映できることは反映して、改善していくということで理解しました。1点私の方から確認なのですが、今回、盛土規制法が施行されてですね、その点について、室蘭市は北海道との関連で何か協議しているような情報はあるのでしょうか。

#### **【事務局】**

104ページの大規模盛土の話ですが、北海道との協議の中で、もし大規模盛土に関する国の補助金を使うことを検討してるのであれば、防災指針に大規模盛土に関する記載をした方がいいのではないのでしょうか、ということがありまして、今、市で把握している盛土の状況と、今後対策が必要となった場合には、対策事業を検討していきますという書き方をさせてもらっています。

#### **【川村委員】**

わかりました。今後おそらく、いろいろ議論が進んでくるとは思いますので、その点、また情報があれば教えていただければなと思います。

#### **【市村会長】**

本日いただいたご意見を、できるだけ反映させて、次のパブコメに進んでいただければと思います。本日はこれで終了いたします。